

第5回国際コンファレンス

決済システムの強化を考える

-アジアにおける決済の円滑化と資金循環の活発化-

主催： アジア開発銀行研究所、慶応義塾大学グローバルCOE、金融庁金融研究研修センター

平成21年2月10日(火)

中央合同庁舎第7号館講堂

概要

決済システムは、金融・資本市場を支える重要な社会的基盤の一つであり、時代の変化に対応してその安全性・効率性・利便性の向上を図ることが重要である。近年、情報通信技術の発達を背景に、わが国をはじめとする様々な国々で、電子マネー等の新しい決済ビジネスが成長している。また、資金決済システムの分野では、海外との連携強化を図る観点から、国際標準化や顧客ニーズへの対応といった動きも進み始めている。

アジアでは、各国ともに高い貯蓄率を維持しているが、それによって集めた資金の大半は、アメリカ・ヨーロッパで運用されており、アジア域内において循環していない。アジアの中での資金循環を促進するためには、例えば債券市場の育成等の努力も課題となるが、金融・資本市場に不可欠なインフラである各国決済システムの強化も重要である。アジア各国において、利便性向上につながる決済法制や標準化された決済システム・インフラの整備が進むこととなれば、アジアにおける決済の円滑化や資金循環の活発化にも資するものと考えられる。

このような問題意識のもとで、本国際コンファレンスでは、(1)近年のアジアにおける資金フローの現状や決済システムとの関連性を分析したうえで、(2)アジア域内における決済システムの現状と強化に向けた取組みを紹介し、(3)決済システムの強化がアジアにおける決済の円滑化や資金循環の活発化にいかに関与するのかについて考えることを目的とする。

議事次第

10:00～ **開会挨拶** 佐藤隆文 金融庁長官
河合正弘 アジア開発銀行研究所所長

10:10～ 【セッションⅠ】「アジアにおける資金フローの現状と決済システムの関連性」 (Capital Flows , Payment System in Asia and its Relation to Financial Markets)

- 「各国の決済システムの発展について」
- 「決済に関する新しいサービスの利用拡大がもたらす、アジア域内中小企業の資金フロー円滑化の可能性」
- 「世界的な金融危機による資金フロー及び決済システムへの影響」

モデレーター : ワラポット・マヌピパポン アジア開発銀行研究所研修・人材育成部長
報 告

インドネシア: レイモンド・アティジ インドネシア戦略国際問題研究所(CSIS)経済部長

マレーシア: マリオ・ランベルテ アジア開発銀行研究所研究部長

アミル・アクマル・ビン・バシール アジア開発銀行研究所リサーチ・インターン

タイ: カニット・サングスバーン タイ財務省財政政策研究所所長

フィリピン: マリオ・ランベルテ アジア開発銀行研究所研究部長

コメ ント : ハ・リピング 北京師範大学経済学部教授

ラジャット・カトゥーリア インド国際経済関係研究所(ICRIER)教授

12:30～ 昼食

13:30～ 【セッションⅡ】「アジア域内における決済システムの現状と強化に向けた取組み」 (The Sophisticated Payment System, Technologies and Regulatory Issues)

モデレーター : 杉浦宣彦 中央大学大学院戦略経営研究科教授
(金融研究研修センター特別研究員)

- 「アジア域内における決済システムの現状(クロスボーダー決済の課題を含む)」

報 告 : ナヴィン・グプタ HSBCキャッシュマネージメント部長

上原高志 日本電子債権機構設立調査株式会社(JEMCO)企画部長

安岡寛道 野村総合研究所金融戦略コンサルティング部上級コンサルタント

- 「日本の決済システムの強化に向けた取組み」

報 告 : 高橋康文 金融庁総務企画局決済システム強化推進室長

外山晴之 日本銀行決済機構局参事役

コメ ント : サンセップ・ジュン ソウル大学法学部准教授

ヘスター・タン 香港金融管理局(HKMA)決済システム業務部長

15:40～ コーヒーブレイク

16:00～ 【セッションⅢ】総括 (Wrap-up Session)

- 「アジアの資金フローの現状とチェンマイ・イニシアティブ等の最近の動き」

基 調 報 告 : 吉田正紀 財務省国際局地域協力課長

- パネル・ディスカッション

議 長 : 吉野直行 金融研究研修センター長、慶応義塾大学経済学部教授

パネ リ ス ト : 河合正弘 アジア開発銀行研究所所長

杉浦宣彦 中央大学大学院戦略経営研究科教授

(金融研究研修センター特別研究員)

ナヴィン・グプタ HSBCキャッシュマネージメント部長
ハ・リピング 北京師範大学経済学部教授
ラジャット・カトウーリア インド国際経済関係研究所(ICRIER)教授

17:55～18:00 **閉会挨拶** 丸山純一 金融庁国際担当審議官

アジア開発銀行研究所

アジア開発銀行研究所 (Asian Development Bank Institute、東京) はアジア開発銀行 (ADB、フィリピン) の補助機関で、同研究所は、ADB に加盟している途上国の「開発戦略の効果的な確立」と「政府組織や機関の健全な開発管理の改善」を支援するため、平成9年12月に設立されました。当研究所は研究と研修を通じて経済開発のための知識の供給者として、中央アジアから太平洋諸国にわたる広い地域へサービスを提供しています。

慶應義塾大学グローバルCOE

グローバルCOEプログラムは、平成14年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業です。

このうち、慶應義塾大学の経済学部・商学部および京都大学経済研究所が連携して運営しているのが、グローバルCOEプログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」であり、吉野直行慶應義塾大学経済学部教授 (金融庁金融研究研修センター長) が拠点リーダーをつとめております。

金融庁金融研究研修センター

金融研究研修センター (Financial Research and Training Center (FRTC)) は、金融庁における”研究と研修の効果的な連携”を目的として、平成13年7月に発足しました。

FRTCでは、金融庁内において先端的な金融理論・金融技術等に関する知識を蓄積するとともに、これを活かして不断に職員の専門性・先見性向上を図っていくための活動を行っております。研究部門としては、特に、“行政実務に則した実践的研究”、“学術研究と実務との架け橋”を目指しております。平成18年からは、金融を巡る実践的なテーマについて産学官の国際コンファレンスを開催しており、今回は5回目の開催となります。